

LANDCOM

CREATE NEW LIFESTYLE AND CULTURE

第9期中間期 株主通信 平成19年1月1日～平成19年6月30日

Evolut!on

ランドコム の 経営理念

ランドコムは、「不動産価値の最大化」をテーマに、「志と情熱」を持って進化成長する少数精鋭のプロフェッショナル集団であり続けます。

ランドコム の 経営方針

私たちは、「少数精鋭」で常に効率的な会社経営を続けます。

私たちは、顧客に対し常に「喜ばれる商品」を供給します。

私たちは、青少年育成、文化・スポーツ活動などを通して社会に貢献します。

■ 会社概要 (平成19年6月30日現在)

商 号 ランドコム株式会社

LANDCOM Corporation

設 立 平成11年1月29日

資 本 金 962,617,805円

従 業 員 数 60名(連結)、54名(単体)

本社所在地 〒220-8145

横浜市西区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー 45F
TEL.045-664-2001

東京支店 〒107-0062

東京都港区南青山3丁目8番37号 第二宮忠ビル3F
TEL.03-5775-4501

連結子会社 株式会社AVANTI、ランドアイ株式会社

■ 取締役および監査役 (平成19年6月30日現在)

代表取締役社長 青木 俊実

取 締 役 松田 尚史

常務取締役 川田 勇次

取 締 役 岡崎 由雄

常務取締役 谷沢 英樹

常 勤 監 査 役 中村 昌平

取 締 役 上田 宏幸

監 査 役 中島 澄雄

取 締 役 高村 正雄

監 査 役 中曽根 洋

Top Interview

当中間期を終えて、
ランドコムは着実に進化することができました。

Q1

中間期を終えまして、青木社長は
どのように総括をされていますでしょうか？

A1 当中間期につきましては、期初予想時に売上計上を見込んでいた「ランドコム六本木（6丁目）」のプロジェクトが、来期の計上となったことを除けば、大変素晴らしい6ヵ月だったと考えています。

どのような点が素晴らしかったかと言いますと、まず、当社の信用力や評価が、これまでより格段に向上し、当社への追い風がますます強まったことが挙げられます。

例えば、金融機関からの評価が向上したことにより、昨年の年間売上高に匹敵するような物件を仕入れることが可能になったほか、国内の有力な不動産・金融のプレーヤーから提携の打診や、物件情報などの話が数多く寄せられるようになりました。この背景には、当社が誇る「不動産企画開発力」や、社内の管理体制などへの評価が高まったという一面もあります。

さらには、外資系や海外の有力企業、不動産投資家と話をさせていただく機会も大きく増えました。そういった中から、新しい取り組みも生まれつつあり、年内にも、株主の皆さまにご報告をしていけるのではないかと考えています。



代表取締役社長
青木 俊実

ランドコムという会社そのものも、大きく進化することができました。今年の4月からは、当社初の新卒社員が6名入社し、全員が現場で意気揚々と活躍してくれています。また、即戦力の優れた中途社員の入社も増え、仕入力が大きく向上したほか、内部統制や管理部門の強化を図ることができました。

Q2

通期業績については、
上方修正を公表していますが、
見通しはいかがでしょうか？

A2 来期に計上することとなった「ランドコム六本木(6丁目)」は、3月中旬に54億円で引渡しを完了したプロジェクトですが、これだけ大きな金額のプロジェクトの計上時期が変更になったにもかかわらず、7月、8月と2回にわたり、通期業績を上方修正することができました。

特に、8月公表の上方修正においては、予想連結売上高が前期比113.7%増の27,887百万円、営業利益は115.3%増の3,609百万円、経常利益は63.4%



増の2,357百万円、純利益は70.6%増の1,371百万円と、大幅な成長を見込んでいます。

当中間期につきましては、想定していなかった事情により、予想業績には到達しなかったものの、当社はIPO以来、通期業績においては、公表させていただいた予想業績を上回る成果を出してきた実績があります。

現状の当社の実力や、当社を取り巻く環境から考えますと、通期業績予想の達成はもちろんのこと、「売上高1,000億円を達成するまでは、売上高ならびに経常利益を前年比50%以上で成長させていく」という会社目標の達成に向けて、私は強い自信を持っています。

Q3

業績の成長が続いていますが、
今後のさらなる成長を、
どのように実現していきますか？

A3 まず、好評を博した「ニセコプロジェクト」の発展形として、海外の投資家に、日本の不動産をインターネット経由でダイレクト供給していきたいと考えています。これにより、不動産業が外貨獲得産業になることが想定され、社会的にも大きな意義があると考えています。

また、当社の信用力向上や業界での存在感上昇などを背景に、六本木に代表される都心の優良物件の獲得を加速させていくとともに、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地の優良物件の仕入れも強化していきます。

この秋からは、全国の銀行や不動産会社、不動産

オーナーなどの中から、プレミアムメンバーだけを厳選した新たな不動産価値創造ネットワークである「ランドコネクト」も開始します。この「ランドコネクト」の始動により、当社の事業機会は飛躍的に増大していくものと期待しています。

これらは、数ある成長戦略の一部ですが、やはり、一番の基本となるのは、不動産流動化、マンション関連、ハウス関連の中核3事業を通じて、経営理念である「不動産価値の最大化」を愚直に追求していくことだと考えています。現在の成長も、この姿勢を買っているからこそ実現できていると思っていますので、常に意識し続けていきます。

Q4

CSR（企業の社会的責任）や コンプライアンス（法令順守）などの 取り組みについて教えてください。

A4 CSR活動やコンプライアンスの重要性については強く認識しており、社員に対して、日頃から意識付けを行っています。

当中間期における主な取り組みとしては、まず、省エネ・環境性に優れた「本格的なマイホーム発電の実現を目的とする研究」を東京ガス株式会社と共同で行うことが決まったほか、業務提携先である、新エネルギーおよび省エネルギーの総合プロデュース事業を行う株式会社キシムラインダストリーとの協業も強化しました。

また、地域社会への貢献、さらには、次代を担う子どもたちを支援する意味も込めて、横浜などで開催

された教育、スポーツなどの各種イベントに協賛をしました。

このほか、コンプライアンスや内部統制への対応強化を進めるため、社内研修の実施や、担当社員の増強といった施策も実施しました。

当社は、今後も、このような取り組みを着実かつ誠実に進め、会社の基盤を一層強固なものにしていきたいと考えています。

Q5

最後に、株主の皆さまに メッセージをお願いいたします。

A5 ここまでお伝えしてきましたように、現在、当社には確実に追い風が吹いており、物件の仕入から金融機関との関係に至るまで、非常に良好な事業環境にあります。このような中、しっかりと足元を見つめた経営も推進しており、組織体制や社内の管理体制も着実に固めてきております。

また、5月から従業員持株会を新たに導入し、8割以上の従業員が加入した結果、従業員一同、株主の皆さまと同じ目線で、一層の企業価値向上に励むようになってきています。

私どもは、今後も、業績の向上という正攻法で、株主の皆さまのご期待にお応えしていきたいと考えています。そして、当期の期末に向けて、株主の皆さまに少しでも良いご報告ができるよう、社員一丸となって企業価値向上に向けて取り組んでいくことをお約束いたします。



不動産流動化事業

■ 不動産流動化事業の概要

購入した用地に商業施設・オフィスビルなどを開発する「開発事業」や、中古不動産をリノベーションやコンバージョンすることによって高収益不動産に高める「再生事業」などを通じ、「不動産価値の最大化」を実現するとともに、不動産投資ファンドや事業法人、投資家などにさまざまな不動産物件を販売しています。

■ 当中間期の業績について

当中間期の不動産流動化事業においては、「ニセコプロジェクト Part.1」と位置づけた外国人向けコンドミニアム「ニセコランドマークビュー（北海道虻田郡倶知安町）」ならびに「吉野町プロジェクト（神奈川県横浜市）」の2物件を販売しました。

その結果、売上高は2,223百万円、営業利益は316百万円となりました。

TOPICS

「ニセコランドマークビュー」の完売と「ニセコプロジェクト Part.Ⅱ」の始動

4月、北海道のニセコひらふ地区において、インターネットを通じて主にオーストラリア人を対象に販売していた「ニセコランドマークビュー」が、全48戸完売しました。

このプロジェクトの成功を受け、6月には、客室オペレーション付き戸建て住宅（全5戸）を新たに分譲する「ニセコプロジェクト Part.Ⅱ」が始動しました。



ニセコランドマークビュー

所在地／北海道虻田郡倶知安町
総戸数／48戸（うち店舗1戸）
竣工／2006年12月



ニセコプロジェクト Part.Ⅱ

所在地／北海道虻田郡倶知安町
戸数／全5戸

「六本木」で 2つのプロジェクトを展開

3月、東京都港区の六本木駅徒歩2分に位置する「ランドコム六本木（6丁目）」プロジェクトが、54億円にて決済（引渡し）を終えました。

また、5月には、同じく六本木駅から徒歩2分で、東京ミッドタウンの正面という好立地に、「ランドコム六本木（7丁目）」プロジェクトの用地約300坪を確保しました。



ランドコム六本木（6丁目）

所在地／東京都港区六本木
用地取得／2006年6月
建物概要／地上9階、地下1階、
商業ビル（予定）



ランドコム六本木（7丁目）

所在地／東京都港区六本木
用地取得／2007年5月
建物概要／地上7階、地下2階、
商業ビル（予定）

都心優良地の仕入が加速

当中間期は、都心優良地における物件の仕入が順調に進みました。その結果、「ランドコム芝3丁目（港区芝）」、「ランドコム四谷（新宿区四谷）」、「ランドコム秋葉原（千代田区岩本町）」、「ランドコム虎ノ門（港区虎ノ門）」、「ランドコム永田町（千代田区平河町）」などといったプロジェクトが始動しています。



マンション関連事業

■ マンション関連事業の概要

マンション関連事業においては、社内外の一流建築士・デザイナーとのコラボレーションにより高付加価値ブランドである「ランドコム」ブランドによる分譲事業を展開しているほか、協力デベロッパーに対するOEM開発事業を行っています。

■ 当中間期の業績について

当中間期のマンション関連事業においては、売上を計上するプロジェクトはありませんでした。その結果、206百万円の営業損失となりました。

TOPICS

「ランドコム上星川スクエア」の 販売開始（4月）

相模鉄道線「上星川」駅徒歩2分という利便性の高い立地に位置する、総戸数21戸のファミリー向けマンション「ランドコム上星川スクエア（神奈川県横浜市保土ヶ谷区坂本町）」の販売を開始しました。



ランドコム上星川スクエア

所在地／神奈川県横浜市保土ヶ谷区坂本町
建物概要／地上6階、ファミリーマンション、21戸

「ランドコムつくば Hanabatake」の 販売開始（5月）

地上9階建て、総戸数110戸の大型ファミリー向けマンション「ランドコムつくば Hanabatake（茨城県つくば市花畑）」の販売を開始しました。



ランドコムつくば Hanabatake

所在地／茨城県つくば市花畑
建物概要／地上9階、ファミリーマンション、110戸

「ランドコム取手」プロジェクト始動（3月）

JR常磐線「取手」駅から徒歩5分のロケーションにおいて、「Blue Light」をコンセプトとする新発想マンション「ランドコム取手（茨城県取手市取手）」プロジェクトが始まりました。地上15階建て、総戸数71戸を予定しています。



ランドコム 取手

所在地／茨城県
取手市取手
建物概要／
地上15階、
71戸（予定）

「ランドコム浦賀」プロジェクト始動（6月）

浦賀港を一望する約3,000m²の事業用地において、「ランドコム浦賀（神奈川県横須賀市東浦賀町）」プロジェクトに着手しました。今後、地上7階建て、総戸数77戸のマンションの建設を予定しているほか、マリナポート事業やレストラン事業といった事業展開も視野に入れています。



ランドコム浦賀

所在地／神奈川県横須賀市東浦賀町
建物概要／地上7階、77戸（予定）



ハウス関連事業

■ ハウス関連事業の概要

ハウス関連事業では、上質で本物の住まいを追求しています。コンセプト型住宅ブランド「アーティストホーム」の提供や、協力ハウスメーカーに対するOEM開発事業を行っています。

■ 当中間期の業績について

当中間期のハウス関連事業においては、「アーティストホーム保土ヶ谷初音ヶ丘」、「アーティストホーム新座」、「南万騎が原」、「鎌倉西御門」などといった物件の販売や、注文住宅など、計9物件を販売しました。その結果、売上高は991百万円、営業利益は76百万円となりました。

TOPICS

「アーティストホーム 保土ヶ谷初音ヶ丘」 完売 (5月)

「アーティストホーム」ブランドの第一弾プロジェクトであった「アーティストホーム 保土ヶ谷初音ヶ丘 (神奈川県横浜市保土ヶ谷区初音ヶ丘・全23戸)」が完売しました。



アーティストホーム
保土ヶ谷初音ヶ丘
所在地/
神奈川県横浜市
保土ヶ谷区初音ヶ丘
戸数/全23戸

「アーティストホーム新座」 完売 (5月)

「アーティストホーム保土ヶ谷初音ヶ丘」と同じ5月に、「アーティストホーム」ブランド第二弾プロジェクトとなる「アーティストホーム新座 (埼玉県新座市大和田・全7戸)」が完売しました。



アーティスト
ホーム新座
所在地/
埼玉県新座市大和田
戸数/全7戸

新規プロジェクト、続々スタート

ハウス関連事業においては、旺盛な物件の仕入れが続いており、新規プロジェクトが続々と始まっています。それらの一部をご紹介しますと、「アーティストホーム久が原 (東京都大田区)」や、「アーティストホーム富岡西」・「アーティストホーム鶴ヶ峰」・「アーティストホーム篠原西」・「アーティストホーム妙蓮寺」・「アーティストホームたまプラーザ」(いずれも神奈川県横浜市) などといったプロジェクトがあり、「アーティストホーム」の展開を通じて不動産メーカーとしてのコーポレートブランドの確立も目指していきます。

その他の事業

■ その他の事業の概要

その他の事業においては、ランドコムにおける不動産賃貸事業ならびに不動産仲介事業や、100%連結子会社のランドアイ株式会社による不動産コンサルティング事業、同じく100%連結子会社の株式会社AVANTIが運営するレストラン事業などを行っています。

■ 当中間期の業績について

当中間期のその他の事業においては、保有不動産および不動産流動化事業用の賃貸物件の賃貸収入が222百万円、仲介手数料などが5百万円、その他、レストラン事業などの売上が38百万円となった結果、売上高は271百万円、営業利益は80百万円となりました。

TOPICS

不動産賃貸事業の本格的な拡大・強化に着手

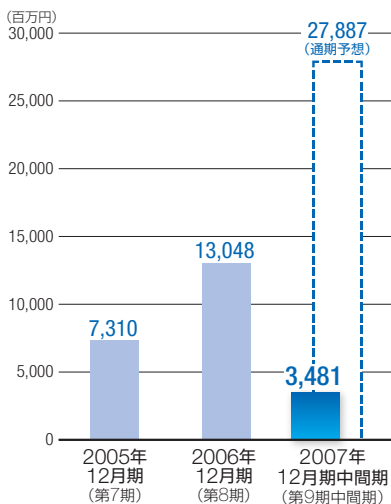
当社は現在、中核三事業に加えて、不動産賃貸事業やオペレーション事業といったその他の事業にも注力していくことで、収益の拡大・安定化を図っていく方針を掲げています。その一環として、不動産賃貸事業の拡大・強化を目的に、7月、「サンシティ中野（東京都中野区）」の取得を決議しました。今後も、高利回りが見込める優良物件に関しては、簿価ベースで300億円程度まで自社保有を積み上げ、これにより、賃貸事業の収益だけで年間の全社販管費をまかなっていくことを想定しています。

「VENTO MARINO」においてレストランウェディングスタート

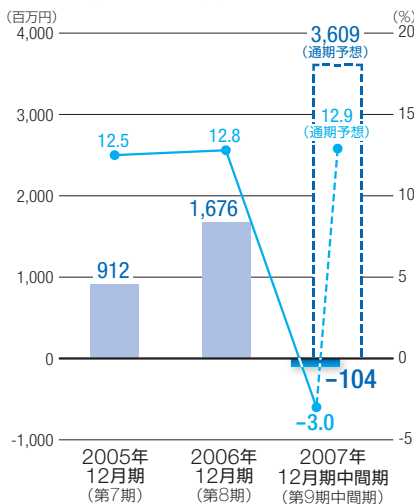
7月、神奈川県大磯駅から徒歩1分の本格イタリアンレストラン「VENTO MARINO」を運営する株式会社AVANTIは、ハウスウェディング最大手の株式会社テイクアンドグヴ・ニーズと業務提携を行いました。この提携により、「VENTO MARINO」ではレストラン・ウェディングを本格的に展開していきます。



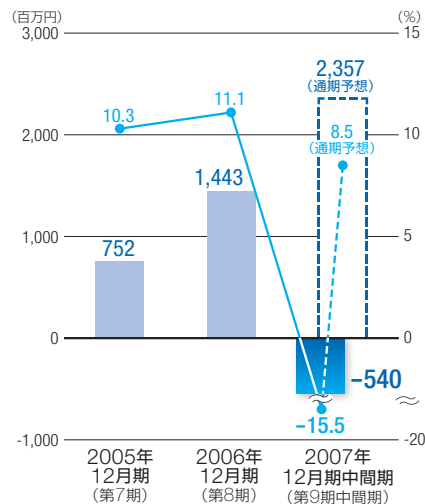
■ 売上高



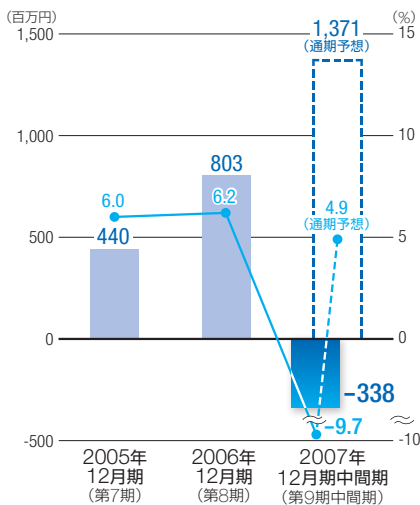
■ 営業損益／営業損益率



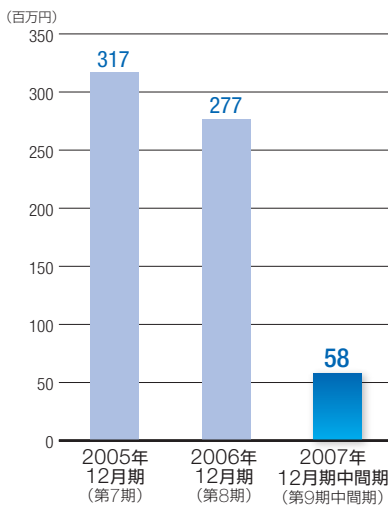
■ 経常損益／経常損益率



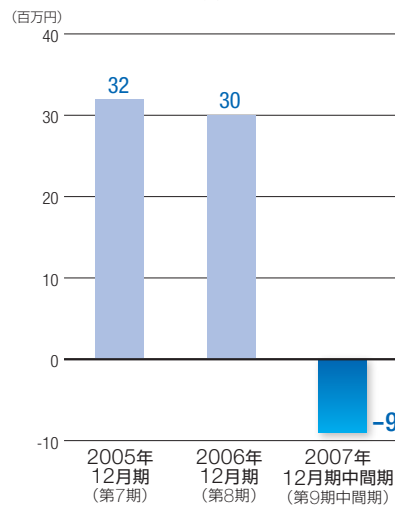
■ 当期純損益／当期純損益率



■ 1人当たり売上高

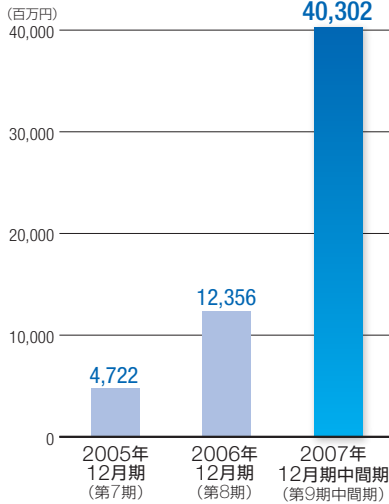


■ 1人当たり経常損益

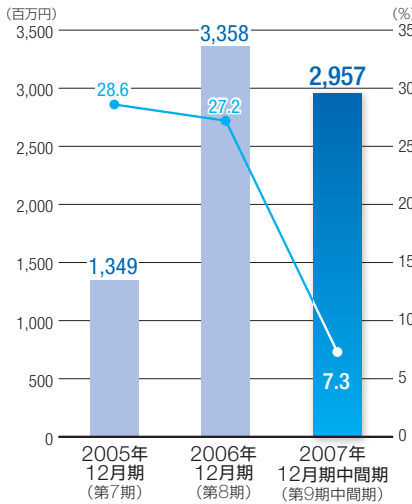


※当社グループは、2006年12月期通期決算より連結決算を作成しています。

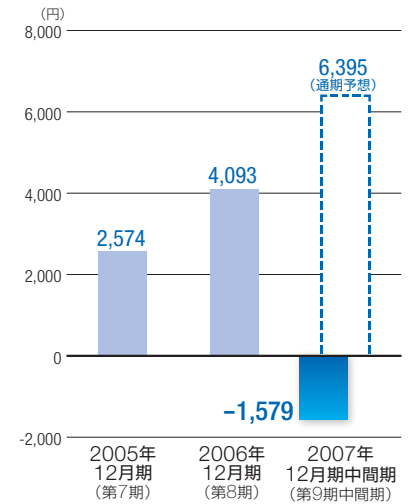
■ 総資産



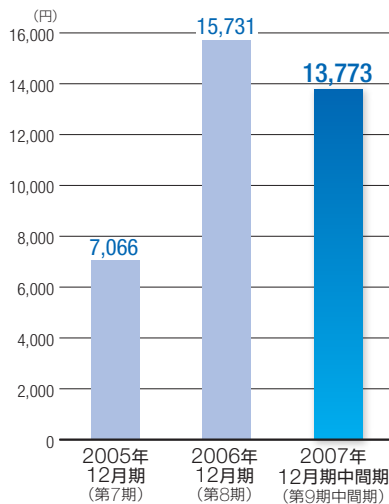
■ 純資産／自己資本比率



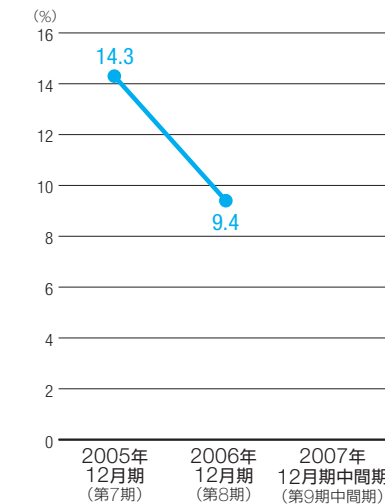
■ 1株当たり当期純損益



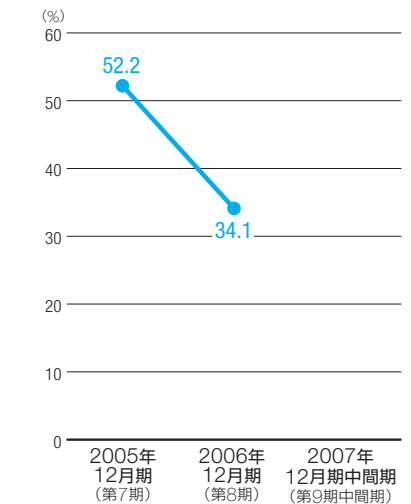
■ 1株当たり純資産



■ ROA(総資産当期純利益率)



■ ROE(自己資本当期純利益率)



中間連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	第9期中間期 平成19年6月30日現在	第8期 平成18年12月31日現在
(資産の部)		
流動資産	37,590,783	11,165,667
現金及び預金	790,691	986,590
受取手形及び売掛金	5,830	156,151
たな卸資産	35,681,185	9,549,301
その他	1,113,075	503,625
貸倒引当金	—	△ 30,000
固定資産	2,711,720	1,190,417
有形固定資産	1,738,046	1,023,117
土地	1,415,688	761,933
その他	322,357	261,184
無形固定資産	3,290	3,372
投資その他の資産	970,383	163,927
投資有価証券	12,972	34,330
繰延税金資産	838,096	31,897
その他	141,378	119,099
貸倒引当金	△ 22,063	△ 21,400
資産合計	40,302,503	12,356,085

(単位:千円)

科目	第9期中間期 平成19年6月30日現在	第8期 平成18年12月31日現在
(負債の部)		
流動負債	28,783,217	3,287,596
支払手形及び買掛金	159,131	300,450
短期借入金	16,369,600	1,467,200
一年内返済予定長期借入金	5,452,339	539,467
一年内償還予定社債	160,000	—
前受金	5,588,608	42,019
その他	1,053,537	938,458
固定負債	8,562,039	5,709,723
社債	860,000	220,000
長期借入金	7,564,304	5,406,432
その他	137,734	83,291
負債合計	37,345,256	8,997,319
(純資産の部)		
株主資本	2,963,458	3,358,616
資本金	962,617	953,782
資本剰余金	975,117	966,282
利益剰余金	1,025,722	1,438,551
評価・換算差額等	△ 6,211	149
その他有価証券評価差額金	275	149
繰延ヘッジ損益	△ 6,486	—
純資産合計	2,957,247	3,358,765
負債純資産合計	40,302,503	12,356,085

■ 中間連結損益計算書

(単位:千円)

科目	第9期中間期 平成19年1月1日～ 平成19年6月30日	第8期中間期* 平成18年1月1日～ 平成18年6月30日
売上高	3,481,152	7,594,895
売上原価	2,786,214	6,159,123
売上総利益	694,938	1,435,771
販売費及び一般管理費	799,921	472,149
営業利益又は営業損失(△)	△ 104,983	963,621
営業外収益	3,551	3,325
営業外費用	438,725	59,215
経常利益又は経常損失(△)	△ 540,158	907,731
特別利益	29,000	12,560
特別損失	92	56,376
税金等調整前中間純利益又は損失(△)	△ 511,250	863,916
法人税、住民税及び事業税	622,816	388,671
法人税等調整額	△ 795,964	△ 27,897
当期純利益又は中間純損失(△)	△ 338,102	503,142

*第8期中間期はランドコム株式会社単体の数値となっております。

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	第9期中間期 平成19年1月1日～ 平成19年6月30日	第8期 平成18年1月1日～ 平成18年12月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 21,989,685	△ 6,020,921
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 715,331	△ 206,140
財務活動による キャッシュ・フロー	22,503,117	6,368,702
現金及び現金同等物 の増減額(△減少額)	△ 201,899	141,640
現金及び現金同等物 の期首残高	965,388	823,747
現金及び現金同等物 の中間期末(期末)残高	763,489	965,388

■ 中間連結株主資本等変動計算書 (平成19年1月1日～平成19年6月30日)

(単位:千円)

	株主資本				評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
平成18年12月31日 残高	953,782	966,282	1,438,551	3,358,616	149	—	149	3,358,765
中間連結会計期間中の変動額								
新株の発行	8,835	8,835	—	17,671	—	—	—	17,671
剰余金の配当(注)	—	—	△ 74,726	△ 74,726	—	—	—	△ 74,726
中間純損失(△)	—	—	△ 338,102	△ 338,102	—	—	—	△ 338,102
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	126	△ 6,486	△ 6,360	△ 6,360
中間連結会計期間中の変動額合計	8,835	8,835	△ 412,829	△ 395,158	126	△ 6,486	△ 6,360	△ 401,518
平成19年6月30日 残高	962,617	975,117	1,025,722	2,963,458	275	△ 6,486	△ 6,211	2,957,247

(注) 平成19年3月の定時株主総会における利益処分項目であります。

Financial Statements 《中間個別財務諸表》

中間貸借対照表

(単位:千円)

科目	第9期中間期	第8期
	平成19年6月30日現在	平成18年12月31日現在
(資産の部)		
流動資産	37,570,094	11,092,161
固定資産	2,810,820	1,289,188
有形固定資産	1,737,146	1,021,889
無形固定資産	3,290	3,372
投資その他の資産	1,070,383	263,927
資産合計	40,380,915	12,381,350
(負債の部)		
流動負債	28,774,976	3,274,259
固定負債	8,567,652	5,722,833
負債合計	37,342,628	8,997,093
(純資産の部)		
株主資本	3,044,498	3,384,107
資本金	962,617	953,782
資本剰余金	975,117	966,282
利益剰余金	1,106,762	1,464,043
評価・換算差額等	△ 6,211	149
純資産合計	3,038,287	3,384,257
負債純資産合計	40,380,915	12,381,350

中間損益計算書

(単位:千円)

科目	第9期中間期	第8期中間期
	平成19年1月1日～平成19年6月30日	平成18年1月1日～平成18年6月30日
売上高	3,447,075	7,594,895
売上原価	2,760,563	6,159,123
売上総利益	686,512	1,435,771
販売費及び一般管理費	741,636	472,149
営業利益又は営業損失(△)	△ 55,124	963,621
営業外収益	9,033	3,325
営業外費用	438,701	59,215
経常利益又は経常損失(△)	△ 484,792	907,731
特別利益	29,000	12,560
特別損失	92	56,376
税引前中間(当期)純利益又は税引前中間純損失(△)	△ 455,885	863,916
法人税、住民税及び事業税	622,633	388,671
法人税等調整額	△ 795,964	△ 27,897
中間(当期)純利益又は中間純損失(△)	△ 282,554	503,142

中間株主資本等変動計算書 (平成19年1月1日～平成19年6月30日)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等				純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	評価・換算 差額等 合計	
		資本 準備金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計					
平成18年12月31日 残高	953,782	966,282	966,282	1,464,043	1,464,043	3,384,107	149	—	149	3,384,257
中間会計期間中の変動額										
新株の発行	8,835	8,835	8,835	—	—	17,671	—	—	—	17,671
剰余金の配当(注)	—	—	—	△ 74,726	△ 74,726	△ 74,726	—	—	—	△ 74,726
中間純損失(△)	—	—	—	△ 282,554	△ 282,554	△ 282,554	—	—	—	△ 282,554
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	126	△ 6,486	△ 6,360	△ 6,360
中間会計期間中の変動額合計	8,835	8,835	8,835	△ 357,280	△ 357,280	△ 339,609	126	△ 6,486	△ 6,360	△ 345,969
平成19年6月30日 残高	962,617	975,117	975,117	1,106,762	1,106,762	3,044,498	275	△ 6,486	△ 6,211	3,038,287

(注) 平成19年3月の定時株主総会における利益処分項目であります。

Stock Information

株式情報 (平成 19 年 6 月 30 日現在)

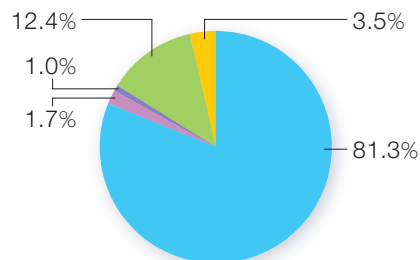
株式の状況

発行可能株式総数	440,000株
発行済み株式総数	214,705株
当中間期末株主数	5,232名

大株主情報

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
青木 俊実	103,550	48.22
有限会社エス・オー・ピー	18,100	8.43
株式会社サニーインベストメント	5,000	2.32
川田 勇次	3,500	1.63
エイチエスビーシー バンク ピーエルシー クライアーツ ノントックス トリーティ	2,560	1.19
佐藤 忠司	2,410	1.12
神林 忠弘	1,774	0.82
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	1,644	0.76
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505019	1,574	0.73
棚沢 青路	1,500	0.69

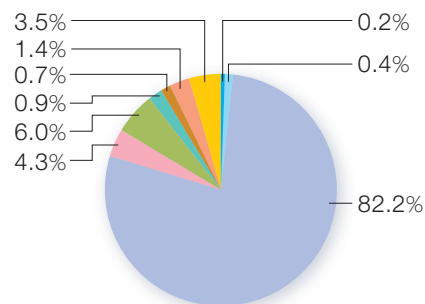
所有者別株式分布状況



個人・その他	174,586株
金融機関	3,660株
証券会社	2,213株
その他国内法人	26,654株
外国人	7,585株

※上記の他に証券保管振替機構が7株保有しております。

地域別株式分布状況



北海道	504株	中国	2,059株
東北	1,012株	四国	1,593株
関東	176,530株	九州	3,108株
中部	9,391株	外国	7,474株
近畿	13,027株		

※上記の他に証券保管振替機構が7株保有しております。

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで		
定時株主総会	毎年3月開催		
基準日	定時株主総会の議決権	12月31日	
	期末配当金	12月31日	
	中間配当金	6月30日	
公告の方法	日本経済新聞		
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社		
同事務取扱所	(電話照会先・郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-78-2031		
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店、全国各支店		

IRサイトのご案内

<http://www.landcom.co.jp/ir/>

当社は株主の皆様に必要なIR情報をホームページで公開しています。



IRに関するお問合せ

ランドコム株式会社 経営企画室

〒220-8145 横浜市西区みなとみらい2-2-1

横浜ランドマークタワー 45F

TEL : 045-664-2001 (代表) FAX : 045-664-2003

E-mail : ir@landcom.co.jp